



# 学校だより

令和2年7月7日

調布市立調布中学校

校長 平岡 盛仁

電話 042-482-0275

学校が再開してから1か月がたちました。6月の最初の2週間は分散登校で1日3時間の授業。その後の2週間は、45分で6時間授業、そして先週からは通常通りの授業となりました。放課後の活動についても、分散登校中はなし、45分授業の期間は1時間以内、そして先週からは通常通りの6時半最終下校でした。

この1か月間は、まずは体を慣らすということが大きな目標でしたが、学校のある生活に慣れましたでしょうか？私から見ると、生徒は少し疲れているのではないかと思います。そして今週は、期末考査1週間前です。疲れがたまってくると思いますが、自分の体や精神を気遣いながら、乗り切ってほしいと思います。

保護者の皆様、ご家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか。疲れていることが多いのではないのでしょうか。そんな時、決して無理をさせないでください。また困ったことなどありましたら、遠慮なく担任に相談してください。世の中が、この様な状況です。いつも以上に、皆で力を合わせて子供を育てていきましょう。

## 自主的と主体的～朝礼講話より～

今日は「自主的」と「主体的」についてお話をします。

この「自主的」と「主体的」の違いを、皆さんはわかりますか？おとなの人でも、この違いがわからないという人が多いのではないかと思います。

「自主的」とは、あらかじめ決められていることや言われていることを率先してやることです。例えば、掃除の時間に、先生から「掃除をしなさい」と言われる前に、自分から掃除をすとか、係活動でも、誰かから言われる前に、係の活動をすとか、宿題を家の人に「やりなさい」と言われる前におこなうとかです。つまり、やるべきことが決まっていて、そのことを自ら進んでやること、これが自主的ということです。皆さんは自主的に行動できていますか？自主性がありますか？

次に「主体的」とは、何でしょうか？これは状況に応じて自分が何をすべきなのかを考え、判断し行動することです。例えば、掃除の時間ではないけれど、汚れている場所があれば、自分で考えて掃除をすとか、係の活動だけでなく、クラスをよりよくするためにアイデアを出したり、新しい取り組みを行ったりとか、宿題をすだけでなく、自ら何かを勉強すとかです。

つまり簡単に言ってしまうと、「自主的」と「主体的」との違いは、自分で考えて判断するかしないかの違いです。この自分で考える、自分で判断するということが大切なのです。

調布中では、「主体的・意欲的に学習に取り組む生徒の育成」をテーマとして先生方が研修に取り組

んでいます。生徒の皆さんが、自分で考え判断し意見を意欲的に言えるような人に育ててもらいたいと願っているからです。

生徒の皆さんも、自主的に行動するのはもちろんのこと、主体的に行動するように、学校生活の中で頑張ってもらいたいと思います。

### 研究授業を実施しました

6月30日（火）の5時間目に、校内研修で研究授業を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時は中止にしようかと思ったのですが、2年間にわたり調布中が研究してきたことを止めるわけにはいかないと思い、工夫をしながら実施しました。

研究授業は3年1組の理科の授業で大西先生が行いました。3密を避けるために、授業は第一理科室で行い、その様子をライブ配信で第二理科室のスクリーンに映し出し、先生方の多くはこちらで授業を参観しました。また今回は第七中学校との合同の研修会でしたので、七中にもライブ配信をして研究授業を参観してもらいました。

授業の内容については、緊急事態宣言による臨時休校で十分な授業時間の確保ができなくなったために、いかに効率よく1時間の授業を行うか。また本校が研究してきた学び合いを音声言語主体ではなく文字言語主体でどう行うかなど、このwithコロナの時代に向けた提案授業でした。

授業後の研究協議会についても、七中とライブ配信で結び一緒に行いました。協議会では、講師の國學院大學人間開発学部初等教育学科教授（前 文部科学省視学官）田村 学 先生から指導講評をいただきました。大西先生の授業の内容、授業に取り組む生徒の姿勢、さらには調布中学校の先生方が研修に取り組む意欲について、お褒めの言葉をいただきました。

今後も調布中学校では、先生方一人一人が授業力を向上させ、生徒が主体的・意欲的に学習するように育てていきたいと思っています。

### 音声言語から文字言語へ

調布中学校では、毎週木曜日の朝、「朝ディスカッション」の時間を設けて、自分の意見をしっかりと伝えるように訓練をしてきました。しかしながらディスカッション自体、感染リスクがあるので、今年度からは、自分の考えを書くという「朝コメント」に変え実施しています。「書く」ということは「話す」ということより難しいところがあります。ですから、テーマに対して書く内容は、単語でも一言でもよいとなっています。もちろん自分の考えを文章にして書いている生徒もいます。このように全員が最初から自分の考えを文章に書くことは難しいので、少しずつ訓練をしながら、すべての生徒に「書く」力をつけさせたいと思っています。

コロナ禍は、学校教育にとってピンチですが、その中でも工夫をしながら、生徒に新たな力をつけさせるチャンスに変えていこうと考えています。